

日本初のMOOC*と東京大学のコラボレーションによる、新しい学びのかたち

「日本中世の自由と平等」 ～ 歴史学は知的な冒険だ！～

対面学習コース(“オンライン講座”+“東大で学び合い”)に
高校生 20 名を 学費・交通費無料でご招待します

日本初のMOOC(*大規模公開オンライン講座)「gacco」<http://gacco.org/>にて東京大学 史料編纂所 本郷和人教授の「日本中世の自由と平等」講座に、オンライン講座と対面学習(授業)を組み合わせ、知識の定着や応用力の育成に重点を置いた反転学習形式のコースが開設されます。

東京大学大学院情報学環 反転学習社会連携講座(FLIT)から、20名の高校生を学費・参加費・交通費無料で対面学習コースにご招待します。歴史が大好きな高校生はもちろん、歴史の勉強は苦手だけど歴史の本を読むのは好きな高校生、そして大学で歴史を学んでどんな感じだろう?と考えている高校生のみさんの応募をお待ちしています。



実施要項

- 学習期間：2015年9月8日(火)～10月5日(月)
※学習期間後も動画と掲示板は閲覧可能です。
※なお、その後に最終課題の提出期間と相互採点期間も入ります。
 - オンライン講座
 - 場所 「gacco」内 「日本中世の自由と平等」講座
https://lms.gacco.org/courses/re_gacco/ga001/2015_09/about
 - 対面授業
 - 日時
 - 第1回 9月19日(土) / 第2回 10月3日(土) ともに 13:00～15:00 (12:30 開場)
 - ※両日授業後の 15:00～16:00 には懇親会(無料)を予定しています(希望者のみ)
 - ※対面授業の際に東京大学本郷キャンパスツアーも実施いたします
 - 場所
 - 東京大学 本郷キャンパス大学院情報学環 福武ホール B2 福武ラーニングシアター
 - アクセス: <http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>
- 参加費：無料 ※ 対面授業参加のための宿泊費(遠方のみ)・交通費を支給します(日本国内に限る)。
- 定員：20名 ※ 応募者多数の場合、受講動機により選考します
- 事務局・お問い合わせ：東京大学大学院情報学環 反転学習社会連携講座(FLIT)
flit.contact@iii.u-tokyo.ac.jp

参加要件・申込方法

- 参加要件：以下のすべての条件に該当する方
 - 「gacco」<http://gacco.org>の会員登録条件に合意し、会員登録していること
 - 「gacco」で開講するオンライン講座「日本中世の自由と平等」の講座内容等を理解し、受講が可能であること 講座 URL https://lms.gacco.org/courses/re_gacco/ga001/2015_05/about
 - 2015年9月8日(火)の時点で高等学校に在学中であること
 - 参加にあたり、保護者の方の同意が得られること
 - 9月19日(土)と10月3日(土)の13:00～15:00に東京大学の本郷キャンパスまでお越しいただけること
 - 学術研究利用のための撮影・録音にご了承いただけること(その他、メディアによる取材が入る可能性があります)
 - 本コースに関わる学習履歴データの学術研究利用にご了承いただけること
- 選考：2015年7月20日(月)までに受講動機(400字以上)を下記申込方法に従い提出
※ 厳正なる選考の上、7月中に結果をメールでお知らせします。
- 申込方法：
東京大学大学院情報学環 反転学習社会連携講座 Web サイトの申込フォームからお申し込みください(お名前、メールアドレス、高校名、学年、現在お住まいの都道府県、受講動機の記入が必要です)。
申込フォーム: <http://flit.iii.u-tokyo.ac.jp/application.html>
※ 選外の場合でも、有料の「対面学習コース」(先着順)もしくは「通常コース」(オンライン講座のみ:受講無料)は受講いただけます。受講は gacco サイトから <http://gacco.org>

「日本中世の自由と平等」 講座概要

■ 講師：東京大学 史料編纂所 本郷和人教授

■ 講座内容：

本講座では、「歴史学は知的な冒険だ！」とうたい、「歴史を暗記から解き放とう！」を目標に、哲学の成果を援用しながら、中世日本での自由と平等のありようをさぐる。

中等教育において、日本史という教科は人気がない。子どもたちに尋ねると、暗記をしなくてはならないから、学ぶ喜びよりも苦痛が先に立つという。これではいけない。日本史は一つの答えが確固として定まっている「静的な」学問では決してなく、知性をもってすれば従来と異なる解釈を数多く産出できる、「動的な」科学なのである。この講座では、「天下統一を目指す戦国大名たちは、競って上洛をこころみだ。その中で地理的条件にも恵まれた織田信長が、天皇や将軍の権威をかりて、天下に号令した」というような通俗的・小説的な理解に対し、様々な異論を示していく。

コースは4つの部分に分かれている。

第1週では、歴史学が科学であること、常に根拠を示しながら解釈を提示していく「知の冒険」であることを、歴史資料を読み解きながら確認する。

第2週は歴史認識に「…であるべきだ(当為)」を重視する見方と、「…である(実情)」を重視する見方、二つの異なる視座があることを説明する。そのうえで、中世の「国のかたち」をそれぞれの視座で議論していく。

第3週では、日本的な土地所有(職の体系、というかたちをとる)のあり方を分かりやすく説明しながら、所有権の深化と自由の拡大についての試論を提示する。

第4週は戦国大名を例にとりて天下統一の新たな解釈を模索するとともに、統一政権の構造をつき崩す可能性をもった、平等を希求するエネルギーの存在に注目する。

